

別れ B4

B4Church
使徒言行録 20:17-24, 28-36
2024年・4月・14日
Alex Lessler

始まり: 感謝 + さようなら

何日も、空白の文書に点滅するカーソルを見つめていました。

空白。言葉はありません。点滅する線だけが、時間が刻々と過ぎていき、何か言うべきことを考えなければならないことを私に思い出させてくれます。

このような瞬間に、適切な言葉を見つけるプロセスをどのように始めればよいのでしょうか。それが、私が長い間考え続けてきた質問です。

私のことをご存知でしょうが、私はたいてい、言いたいことをすべて言うには時間が足りません... 時計は常に刻々と進んでいて、私が話す(後ろの時計は)たいてい赤くなります。なぜなら、私が時間切れになり、子供たちのボランティアが、今週はコーヒーを出すボランティアをすればよかったと思っているからです。;))

しかし今回は違います。

時計が止まったらどうなるのでしょうか? カウントダウンが最後だと分かったら?

あなたはそれらの言葉について、そして毎秒、これまでとは違った方法で考えます。 皆さんのほとんどは、これがどのような感じかご存知でしょう。

永遠の旅に入ろうとしている愛する人との、大切な最後の数分間かもしれません。

または、別れは正しいとわかっている、同時にその人を深く愛し、気にかけているかもしれません。

シーズン最後の試合で、最後にもう一度だけ一緒にコートに後にするかもしれません。

または、一晩中続く卒業パーティーで、ドアから出るときに、たった4年間一緒にいたグループが二度とこのように一緒になることはないわかっているかもしれません。

別の会社で新しい役職に就き、一生懸命一緒に働いてきたチームに別れを告げなければならないかもしれません。

今日ここにいる皆さんの中には、厳しい経済状況とリーダーシップの決定により、別れの旅を経験したばかりの人がたくさんいると思います。書類とあなたの名前が入った箱が届けられ、次に何が起こるのかと疑問に思いながら、人生の破片を拾い集めているところです。

人生で「さよなら」に直面している皆さん、私たちはあなたたちを見ています。私たちはあなたたちを愛しています。私たちはあなたたちのためにいます。そして、あなたたちとともに祈りを捧げています。

さらに重要なのは、イエス様があなたたちを見ています。イエス様は人生の良い時も悪い時もあなたたちとともにいます。

時には、私たちが選ぶ別れもあれば、私たちのために選ばれているように思える別れもあります。私は、私たちが選んだ別れは、強制された別れよりも楽だと思っていました。

もうよく分かりません。

いずれにせよ、こうした極めて重要な、人生を変えるような瞬間は、ほとんどの場合、私たちの記憶に焼き付いています。それは、それが私たちの人生における重要な節目だからです。コアメモリー。

ピクサー映画「インサイド・アウト」のあのシーンを覚えていますか? コア・メモリー。私は4人の小さな子供の父親です。私の頭の中はそこです。ライリーが成長するにつれて、彼女のコア・メモリーは

複雑になっていきます。喜びと悲しみ、怒り、恐怖、嫌悪が混ざり合ったもの。成熟とともに、人間の経験の複雑さが増していきます。

「良い」とみなされるか「悪い」とみなされるかは関係なく、それは一つの章の終わりであり、また別の章の始まりです。

そしてこれが、私が今日いる場所です。私たちの人生の10年に及ぶ章の終わりです。新しい章、新しい冒険の始まりであり、イエス様を信じ従う旅の継続です。

それでは、私が最初に尋ねた質問に戻ります...ご存知のとおり...このような瞬間に適切な言葉を見つuckerことです。

これが私が皆さんとシェアしたい最初の言葉です...

ありがとうございました!

あなたは私の家族の何世代にもわたって影響を与えてきました。

10年以上にわたり、私は B4 の牧師を務めているだけでなく、皆さんも私の教会の家族でした。しかし、皆さんとの歴史は、この 10 年よりずっと前に遡ります。

35 年前、私の両親はここでイエスに人生を捧げました。そして、私の人生の最初の 5 年間、私の信仰の基盤はここで築かれ、築かれていきました。

いつかまたここに来るなんて、ましてや皆さんの牧師の 1 人として来るなんて、想像もしていませんでした。しかし、神様は別のことを考えておられました。神様はいつもそうされます。神様は美しい物語を書いてくださいます。私たちが求めることも想像することもできない物語です。

ありがとうございました。

私は、子どもの奉仕活動の価値を身をもって証明しています。皆さんの中には、保育室で私の面倒を見てくれた方もいます。イエス様はあなたを愛しておられると歌ってくれたり、つま先をぶつけたときに私を落ち着かせてくれたり、汚れたおむつを替えてくれたり、聖書の物語を教えてくれた方もいます。皆さんは私の信仰を育んでくれました。私の両親と妹に教え、私たちのコミュニティも形作られました。会ったことのない皆さんの中には、私の人生を永遠に変えてくれた人もいます。皆さんは、私や他の多くの人々の物語の連鎖の輪です。B4の一員であるなら、何世代にもわたる豊かな信仰の伝統と遺産の一部なのです。

ありがとうございました

ファロンと私が初めてここに来たとき、私たちは最初の子供を期待していました。私たちの親になる旅はここから始まりました。それぞれの子供が生まれると、新しい命は愛され、世話され、養われ、守られました。私の子供たちの信仰の基盤は、私の信仰と同様に、ここで築られました。愛情深く熟練した手によって築られました。あなたは私の子供たちの信仰の形成にとっても協力してくれました。例を挙げてみましょう...

「スカーレット、B4への最後のメッセージでは何を話せばいいの？」

「私がどれだけ素晴らしいか伝えた方がいいわよ。」

◆◆◆◆

「冗談です。シモン・ペテロの物語を話してください。イエスが彼に従うように呼びかけたのです。ペテロは「私は罪深い人間です、立ち去ってください」と言いましたが、イエスは「私について来なさい。あなたを漁師にしてあげます」と言いました。そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネはすべてを捨ててイエスに従いました。そして今、私たちはそれをしていました。イエスを信頼し、イエスに従って新しい冒険に旅立つのです。私たちが知っていること、愛していることすべてを捨てて、イエスは私たちに新しいものを用意してくださっています。」

レスラー牧師を1人失うかもしれませんが、10~15年もすれば、また別の牧師が見つかるかもしれません:)

ファロンと私はその功績を全部自分のものにしたいのですが、それは私たちだけから来たものではありません。あなたからも来たのです。

ありがとうございました

彼女が今のところ一番声が大きいかもしれませんが(私の末っ子が彼女に負けていません)、私の娘たちは全員あなたを心から愛しており、あなたのおかげでイエス様とより親しく歩み、自分たちを愛してくれた人々の名前を知っています。

ありがとうございました

遷移: 長年にわたり、私はここで本当に素晴らしい人々と共に奉仕するという特権に恵まれてきました。ここに立って皆さん全員の名前を挙げ、皆さんが私にとってどれほど大切な存在であるかを伝えたいのですが... 何時間でもここに立って、この教会を自分たちの教会と呼ぶ素晴らしい人々の数え切れないほどの物語を語るすることができます。しかし、時間切れ(カウントダウン クロック)になりつつあります。皆さんと私の旅を少しだけ共有することを約束しました。

動き 1: エフェソスに対するパウロの心

それで... 牧師の一人として最後にもう一度...

聖書をお持ちの方は、使徒行伝20章を開いてください。

数分後に、この季節に私にとって非常に重要だった一節を取り上げます。使徒パウロが心から愛した教会に別れを告げた場面を見ていきます。皆さんは、それが私にとってなぜそれほど重要だったのか、2つのことを結び付けて理解していただけたと思います。

しかし、私の物語を超えて、そしてはるかに重要なことは、イエスに従うことがどのようなものであるかについての美しさ、神秘性、挑戦、そして最終的には冒険を示しています。ですから、私の望みは、皆さんが私たちの物語を聞くだけでなく、皆さんも自分の物語の中でイエスが働いているのを見ることができるようになることです。

最近、私はパウロの手紙の始まりと終わりに惹かれています。それは、私がこの2つの同時の世界に生きているからだだと思います。こんにちとはさようならです。

数週間前、ポー牧師が私たちが出発することを知らせていたのと同時に、ウィラメットが私たちが到着することを知らせていました。私は自宅から同時に2つの画面を開いて両方を見ていました。なんとも非現実的な体験でした。

それ以来、私は自分の最後の言葉と最初の言葉についてよく考えていました。

使徒パウロ以上にインスピレーションを得るのに良い場所はどこでしょうか？

彼の始まりと終わりはいつも似たようなものです。

それらは時には同じ教会に宛てられ、時には異なる教会に宛てられました。

使徒行伝 20 章には別れの詳細な物語が記されていますが、そこには彼の言葉だけでなく、エフェソスの教会とその指導者に対する彼の深い愛と愛情を示す彼の表現された感情も含まれています。

これから読む内容について少し説明しましょう。

エフェソス -

エフェソスの教会はパウロの心の中でかなり特別な場所を占めていました。他の多くの新約聖書の教会と同様に、パウロと彼の仲間たちはその教会を植える責任を負っていました。そこでは本当にユニークなことが起こりました。

- パウロは他のどの教会よりも長くそこに滞在しました(3年間。厳密には2年3ヶ月ですが、ユダヤ人の考え方では、1年のうちのどの時間でも過ごしたら、そのすべてをカウントします。ですから、私がここに来て10周年を迎えたのは3月ですが、彼らの論理では4月なので、私は11年間ここにいたと言えます。◆◆)
- 第19章全体は、パウロのエフェソスでの日々を扱っています。もちろん、1章で3年間の宣教活動をカバーすることはできませんが、いくつかのハイライトは確かにありました。●彼はこの教会と共に生活しました。ティラノスの講堂で毎日彼らを教え、彼らとパンを分け合いました。彼らと共に生活したので、彼はこう言うことができました。「君と一緒にいた間ずっと、僕がどんなふうに暮らしていたか、君は知っているだろう。」
- パウロを通して驚くべき奇跡が起こりました。悪霊は追い出され、パウロが触ったハンカチやエプロンは病人や悪霊に取りつかれた人々に渡され、彼らは癒されました。

- おそらく最も偉大な奇跡の一つは...エフェソスの人々の心の中に福音が深く浸透し、それが地元のエフェソスの経済を混乱させ始めたことです。魔術はエフェソスで大きな産業でした。しかし、かつて魔術を行っていた何人かの人々が、自分の本を火に投げ込み、公衆の前で燃やしました。(これはユースキャンプナイトの前兆でした!) 50,000 ドラクマ相当。それが今日どのくらいの金額になるかは、どの通貨と比較するか (ギリシャのドラクマかローマのデナリカ) によって学者の間で多少議論されています。1 ドラクマ = 1 日分の賃金という見解は一致しているようです。つまり、50,000 日分の賃金です。どう見ても大金です。
 - これほど多くの経済が崩壊すると、権力は黙って従うはずがありません。● 暴動が勃発します。パウロとその仲間はトラブルメーカーとみなされました。彼らは「平和を乱す者」でした。なぜなら、多くの人々がギリシャとローマの神々への崇拝から離れ、唯一の真の神に近づいていたからです。
 - 暴動が次第に勢いを失っていき、パウロと仲間たちはエフェソスからこっそり逃げ出さなければならなくなりました。パウロは急いで別れを告げましたが、暑さが厳しかったので台所から出なければなりません。
- これはすべて、物語に入り込むのに役立つので重要です。
これは、これから読む物語の文脈でもあります。
パウロがエフェソスの指導者たちとこれから交わす会話がどれほど重要なものかを理解するのに役立ちます。

動き 2: 家族 + 動き | 使徒言行録 20:17-24

”そこでパウロは、ミレトからエペソに使をやって、教会の長老たちを呼び寄せた。そして、彼のところに寄り集まってきた時、彼らに言った。「わたしが、アジアの地に足を踏み入れた最初の日以来、いつもあなたがたとどんなふうにご一緒してきたか、よくご存じである。すなわち、謙遜の限りを尽くし、涙を流し、ユダヤ人の陰謀によってわたしの身に及んだ数々の試練の中にあつて、主に仕えてきた。また、あなたがたの益になることは、公衆の前でも、また家々でも、すべてあますところなく話して聞かせ、また教え、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、強く勧めてきたのである。”

使徒行伝 20:17-21 口語訳

パウロはエフェソスに戻ることを避けました。前回アジア州にいたとき、事態は混乱しました。パウロはミレトスに行き、エフェソスの長老たちを呼び寄せました。

長老たちは教会の指導者でした。

長老たちがパウロに会うためにそこに行くには、丸々 4 日かかったでしょう。誰でもそのような旅をするわけではありません。彼らの心は結びついていました。これは、キリスト教共同体の潜在的な力を示す美しい例です。

「私があなたと過ごした最初の日からずっと、私がどんなふうに住んでいたか、あなたは知っているでしょう...」

この季節を振り返りながら、私たちの生活がいかに絡み合ってきたかについて考え続けました。もちろん、私はあなた方全員を知っているわけではありませんし、過去 4 か月以内に B4 に参加したばかりの方もいるでしょうから、これはあなたとほとんど関係がありません。それが物事の本質です。しかし、この旅路を私たちと一緒に歩んできた何百人もの皆さんがいます。24 歳の若さ (そして 30 ポンド前) で、ずっとよく休んでいました。私たちは一緒に成長しました。私が最初に来たとき、あなた方の多くは私を好きではありませんでした。ハハ。好きだったふりをしないでください。私たちは一緒にこのことを理解しなければならませんでした。そして、私たちは理解しました。そして、あなた方は今私の家族です。だから別れを告げるのは辛いのです。そうあるべきなのです。

そうでなければ、私たちはこのことを正しく行えなかったでしょう。

教会は神の家族です。

皆さんの中には「家族」という言葉に意味の込められた人もいます。そして、神の家族の一員であるということは、困難や複雑、混乱がないということではありません (皆さんの家族と同じで

す)。

だからといって、皆さんが「神の息子、娘」であり、神の家族の兄弟姉妹であるという事実が変わるわけではありません。

新約聖書では、皆さんは「新しい人類」と呼ばれています...「あなたの人生は共に生きる」は、人間としてより良い方法、つまりイエスの道があることを世界に示す証しです。

”今や、わたしは御霊に迫られてエルサレムへ行く。あの都で、どんな事がわたしの身にふりかかって来るか、わたしにはわからない。ただ、聖霊が至るところの町々で、わたしにはっきり告げているのは、投獄と患難とが、わたしを待ちうけているということだ。しかし、わたしは自分の行程を走り終え、主イエスから賜った、神のめぐみの福音をあかす任務を果し得さえしたら、このいのちは自分にとって、少しも惜しいとは思わない。”

使徒行伝 20:22-24 口語訳

教会は運動である

パウロの旅について考えてみてください。彼は移動していました。

到着。

植え付け。

滞在。

移動。

再訪(時々)。

イエスの道は動きなので、彼の物語には動きがありました。パウロは聖霊がエルサレムに彼を呼んでいると信じていました。

そして彼は、自分の前にあるものは自分の後ろにあるものと同じになるだろうと知っていました。

彼は自分の人生をレースと見ていました...短距離走というよりは長距離走...そして彼の目標はレースを完走し、主イエスが彼に与えた任務を完遂することでした。彼はそれが何であるかを明確に理解していました。

これは、この時期に私にいくらかの慰めと明確さをもたらしました。

2022年 - 物事を変えた言葉

ポー牧師、スタッフリトリート、そして新しい任務の機会について熟考中...「まだです。私はあなたに留まるように呼びかけました。そして、去るよりも留まる方がコストがかかります。」

当時は、1年後にこんなことが起こるなんて思いもしませんでした。でも、私はこの言葉を心に留めていました。日記に書いて、毎日バックバックに入れて持ち歩いています。

パウロが言った「困難が待ち受けている」という言葉に少し似ている気がしました。

だからといって、イエス様がそこにいないというわけではありません。

静かな時代

日記ではそれを「静かな時間」と呼んでいました。

それは23年6月から23年11月まででした。

4か月の混乱の後の6か月の静寂。

静寂は気が狂いそうでした。

2023年初頭まで、つまり9年間、B4で明確な課題があるように感じました。そしてそれは変わりました。

そしてまた変わりました。

そして物事は静かになりました。

私はイエスと格闘しました。さて、これからどうする？そこからどこへ行くのか？ある日私は書きました...

「私が愛する教会の世話を手伝ってもらうためだけに留まってほしいと頼んだら、それで十分でしょうか？」

格闘を通して、この「動き」という概念を思い出しました。

時には神は私たちに「行く」ように呼びかけます。

時には神は私たちに「留まる」ように呼びかけます。
10年間(古代ユダヤの数え方を使えば11年です ;))神は私に留まるように呼びかけました。そして私の時間は終わりました。
そして神は私に「行く」ように呼びかけました。
留まる時と行く時、神はあなたの中で、そしてあなたを通して働きをしています。
あなたの中であなたの魂の形成が起っています。
神があなたに呼びかけた働きは、(あなたを通して)他の人々に祝福をもたらすものです。
「沈黙の時」から抜け出すと、私の季節が終わりに近づいているように思えました。状況と会話。それはまた別の日の話です。
しかし、次に何が起こるかはわかりませんでした。
この時、私は「不確実性ととも生きる」という説教をするようにも命じられました
笑。
それ以来会ったり話したりしていなかった人からメールが届きました...2016年か17年だったと思います。クリス・ヤルコとジョン・ローゼンステールです。
移行: そして数か月後、主が語られました...行動を起こす時が来ました。

動き 3: 互いに気を配り合う | 使徒行伝 20:28-36

そこでパウロは、エフェソスの人々は彼の家族であり、それでも彼は去らなければならないと明言しました。しかし、去る前に、彼は彼らに最後にもう一つ明確な指示を与えました...

”どうか、あなたがた自身に気をつけ、また、すべての群れに気をくばっていただきたい。聖霊は、神が御子の血であがない取られた神の教会を牧させるために、あなたがたをその群れの監督者にお立てになったのである。わたしが去った後、狂暴なおおかみが、あなたがたの中には入り込んで、容赦なく群れを荒すようになることを、わたしは知っている。また、あなたがた自身の中からも、いろいろ曲ったことを言って、弟子たちを自分の方に、ひっぱり込もうとする者らが起るであろう。だから、目をさましていなさい。そして、わたしが三年の間、夜も昼も涙をもって、あなたがたひとりびとりを絶えずさとしてきたことを、忘れないでほしい。今わたしは、主とその恵みの言とに、あなたがたをゆだねる。御言には、あなたがたの徳をたて、聖別されたすべての人々と共に、御国をつがせる力がある。わたしは、人の金や銀や衣服をほしがったことはない。あなたがた自身が知っているとおりに、わたしのこの両手は、自分の生活のためにも、また一緒にいた人たちのためにも、働いてきたのだ。わたしは、あなたがたもこのように働いて、弱者を助けなければならないこと、また『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶しているべきことを、万事について教え示したのである”。こう言って、パウロは一同と共にひざまずいて祈った。”

使徒行伝 20:28-36 口語訳

ここにはまだ説明すべきことがたくさんあります...しかし、要約させてください...

言い換えれば、ポールはこう言います。

お互いを気遣いましょう

健康に気をつけてください。

あなたに任されている人々を守りましょう。

パウロは彼らの羊飼いでした。彼は羊飼いの言葉を使っています。その一部はオオカミに気をつけることです。私はこのチームがそうすることを直接知っています。

「会衆をイエスに委ねる必要があります。イエスが呼びかけない限り、教会から離れることは牧師の本能ではありません。そしてもしイエスが呼びかけたなら、それは信仰です。」(私のセラピストであり友人のジョンの言葉)

神が留まるようにとあなたに呼びかけるなら、留まりなさい。そしてただ見て批判するだけはいけません。袖をまくり、働きなさい。土壌を改良しなさい。次の世代に注ぎなさい。私たちの子供たちと学生たちのためにあなたの人生を注ぎなさい。若者と老人を見なさい。独身者が繁栄し、結婚した人々が繁栄し、お互いの貢献を神からの平等な贈り物として評価できる教会になりなさい。聖霊を追い求めなさい。イエスの似姿に変容し、変えられなさい。自分で立つことができない人々を守り、正義を追求し、慈悲を広げ、神の前に謙虚に歩みなさい。多様性を神の贈り物、天国の現実として評価しなさい。あらゆる人種と文化に場所を与えなさい。お互いの話に耳を傾け、自分自身を尊重する以上にお互いを尊重しなさい。あなたの言葉には生死を分ける力があることを忘れないでください... 命を選びなさい。天国のビジョンのために政治的イデオロギーを脇に置きなさい。

そして神があなたに去るように呼びかけるなら、去りなさい。しかし消費主義や批判ではなく、信仰への応答として行ってください。もし神があなたを召し出すなら、恨みや嫉妬や許しの気持ちを持って去ってはいけません。そんな

ことをする価値はありません。実際、私は少しこんな感じになるべきだと主張します...

”こう言って、パウロは一同と共にひざまずいて祈った。みんなの者は、はげしく泣き悲しみ、パウロの首を抱いて、幾度も接吻し、“

使徒行伝 20:36-37 口語訳

あなたのために祈らせて下さい。(キスしないでください)

結論:パンを割る

-使徒行伝には、パウロが同僚、友人、教会の家族と別れるときに「パンを割く」という話があります。

これは、1世紀から受け継がれてきた、イエスが私たちに与えてくれた数少ない行為の1つです。一緒に食事をする事で、絆が生まれます。つながりです。

食事は、分裂を癒すことができる唯一の源を示しています。絶望している人に希望をもたらします。傷つき忘れられた人に愛と受け入れをもたらします。私たちが手に持っているこれらの小さなものに力があるからではなく、それらが指し示すもの、つまりイエスの生と死に力があるのです。ですから、私たちは食卓に近づくとき、自信と帰属意識を持って近づきます。

パンと杯

終。